２０２２（R4）年「天濃池ビオトープ会」秋の活動報告

報告　野口　隆司
写真　垣井　清澄

■ 日　時　２０２２年１１月１４日（月）１１：００～１４：３０　天候　晴れ
■ 場　所　天濃池（ハーベストの丘の南側にある溜池）
■ 参加者　精華高校生徒　３５名（３年生１クラス）　引率教諭　２名
　　天濃池ビオトープの会　５名　麻生、米道、小西、垣井、野口

精華高等学校は環境福祉コースの３年生の生徒たちが総合的学習の取り組みとして天濃池ビオトープをフィールドにした「エコロジー学習」を行っています。

同高校では毎年４月から１１月の期間に計７回の現地での授業時間（２単位）を設けており、天濃池ビオトープの会は授業が始まった２００７（平成１９）年の当初から夏と秋に２回の実習に協力し、ビオトープ空間の保全や管理などの協働活動をしています。

これまでの取り組みとして、池へのアプローチ路や本堤の草刈りをはじめ、外来動植物の駆除（ブラックバス駆除のための産卵床づくりや胴長靴を履いてザリガニやウシガエルのオタマジャクシ等の捕獲）、ビオトープ講座や自然素材を使ったクラフトづくりなどを行ってきました。また、この間、生徒たちによる堤斜面の階段づくりも取り組まれています。

昨年、一昨年は新型コロナ禍の下、夏と秋の活動は中止になりましたが、今年は新型コロナ感染が下火になり、夏の活動（７月１１日）に続けて秋の活動を取り組むことができました。小春日和の秋真っ盛りの空の下、会メンバーが池で待機する中、堺市中区辻之にある本校からスクールバスに乗って到着した生徒達の元気な声がアプローチ路から聞こえてきます。２０１９年までは環境福祉コースは２クラス（約５０名）の生徒数でしたが、クラス再編されたのか今年は１クラス３５名の生徒数でした。

秋の活動は、生徒たちの最後の実習であり、毎年、クラフトづくりの初体験を取り入れています。本会メンバーの紹介や挨拶の後、カマで草を刈るグループとブルーギル釣りグループの男子生徒と恒例の「クラフトづくり」の女子生徒グループに分かれて活動スタート。

パーゴラの下では、「桜の小枝の鉛筆やピノッキオ」づくり、ナラガシワのどんぐりの殻斗の「イモムシ」づくりに挑戦します。会のメンバーは生徒たちの馴れないキリやノコギリの使い方にハラハラしましたが、生徒たちは楽しそうに作業をしています。中には見本のクラフトではなくオリジナルなものを作って皆に見せている生徒もいました。

昼食休憩を挟んで、午後から男女生徒交代の予定でしたが引き続きクラフトづくりのコーナーを離れない生徒もおり、最後のフィールド授業になる今回は楽しい活動のようで高校生は童心に返ったようです。

１４時３０分前、無事、草刈りとクラフトづくりなどの作業を終え、最後にク

ラフト作品をデッキに並べて集合写真を撮り、秋の里山の一刻を過ごしました。

生徒たち労作のドングリ殻斗の芋虫や
桜の小枝の鉛筆やピノッキオなど

クラフト作品とカマを並べて
集合写真を撮影!!